

7-3 紀伊半島およびその周辺部の地震活動（1996年7月～9月）

Seismic Activity in and around the Kii Peninsula (July-September, 1996)

東京大学地震研究所

地震地殻変動観測センター

和歌山地震観測所

Earthquake Research Institute, The University of Tokyo

今報告期間中の震源分布を第1図（紀伊半島およびその周辺部）、第2図（和歌山市、有田市付近）に示す。期間中（3ヵ月間）に第3図の範囲内には $M \geq 3.5$ は13回（前回9回）起きている。内1回は熊野灘沖の深発地震№4は京都府南部で観測網から外れている。№10は兵庫県南部地震の余震で、今期間中では最大のものであった。残り10回の内、№1、7の2回が紀伊半島北西部の有田、日高地域に起こった極浅発地震で、№1の有田市付近の地震では活発な余震活動が見られた（第2、5図参照）。和歌山市付近では今期間には目立つた地震はなく、極めて低調な状態で、有感地震は№1の有田の地震（震度2）によるもののみであった。また、紀伊半島中部の地殻底下地震にも目立った活動は見られず低調であった。一方、今期間には室戸岬付近から志摩半島にいたる沿岸部付近に中規模の地震の発生が見られたのが目につくものである。

主な地震のメカニズム解の結果を第3図に合わせて示す。なお、第1表にこれらの地震のMの値について気象庁（大阪旬報、M（OMA）で表示）の値を参考として記載しておく。

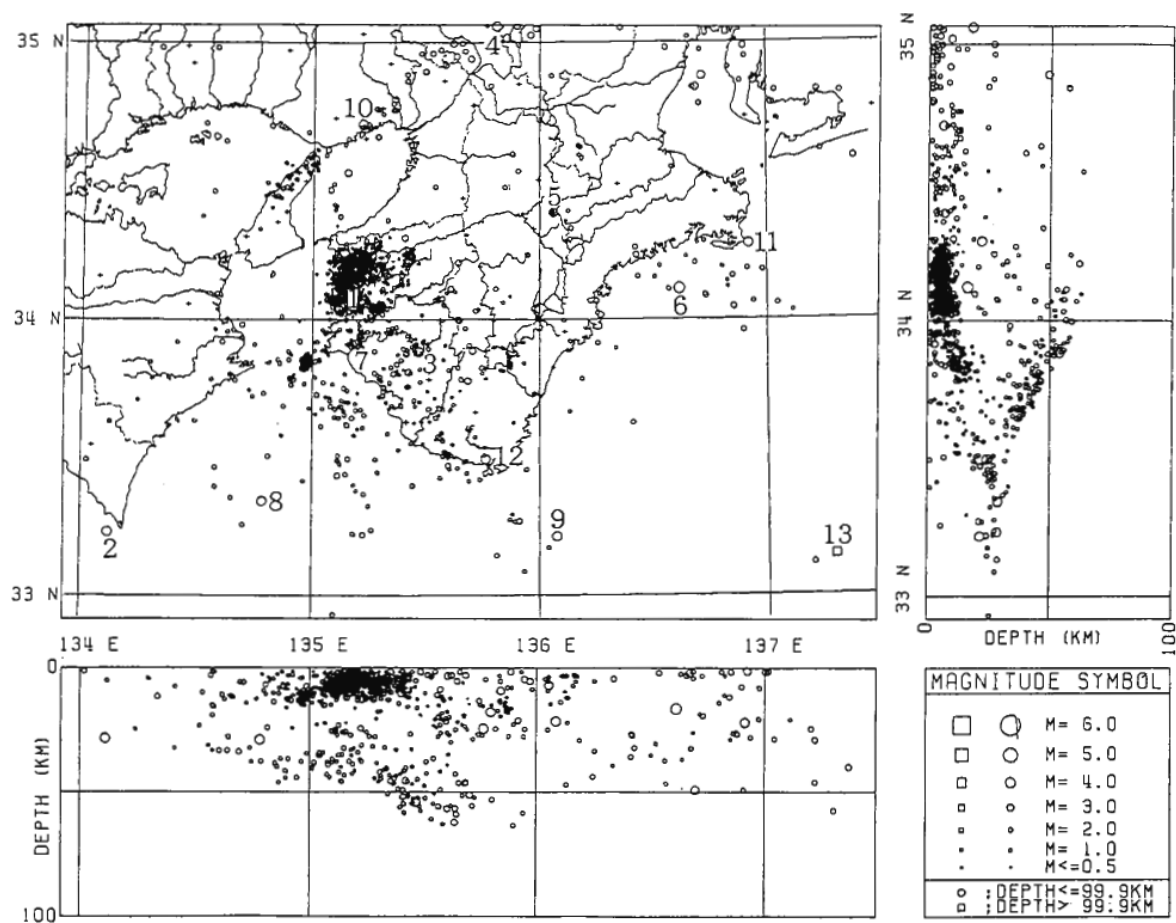
今期間では紀伊半島付近での活動が低調であったが、このことを確かめるため1994年以降について月別発生頻度を比較したのが第6、7図である。両者は深さ25kmで区分している。規模は紀伊半島内でほぼ検知される $M \geq 2$ に限り、範囲は兵庫県南部地震の余震活動を除くためA-A'の南側に限っている。兵庫県南部地震前後約1年は一部（近傍地震の余震）を除けば殆ど増減はなかったが、本年は低調になってきたように見える。特に浅い地震について顕著である。今報告期間後の10月の暫定値では下部の地震は回復したようにも見えるが、浅い地震は更に減少している。和歌山市（気象台）における有感報告数も本年は10月末現在11回（近年30～50回程度、兵庫県南部余震を除く）で異常に少ない状態にある。

第1表 今期間中の $M \geq 3.5$ の震源表 (*は第3図の範囲以南の地震)

Table. 1 List of comparatively large earthquake ($M \geq 3.5$) in and near the Kii peninsula.

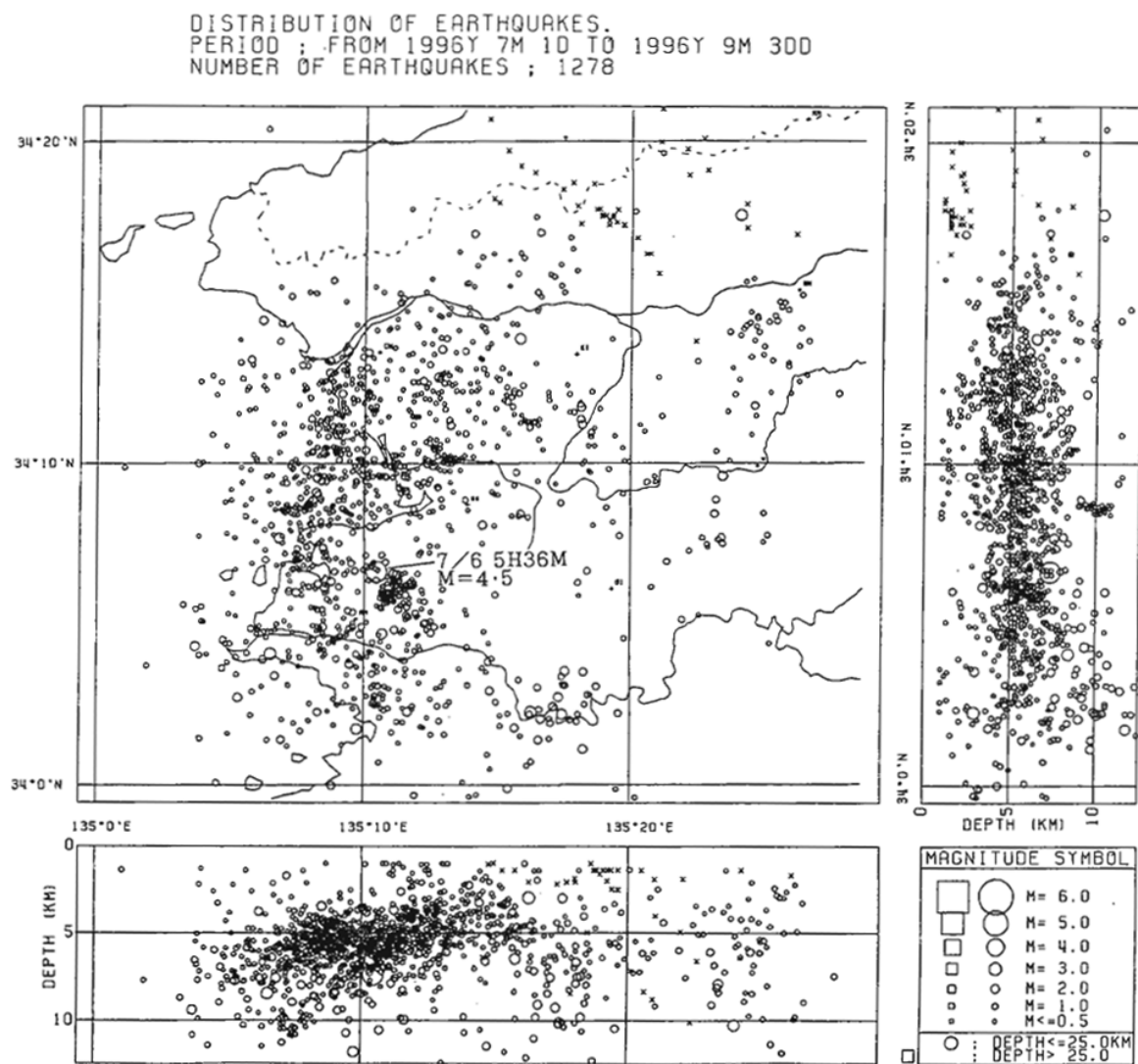
Na	1	1996/07/06	05H36M	H=7KM	M=4.5	有田市付近	M(OMA)=3.9
	2	07/14	00H03M	H=28KM	M=3.8	室戸岬付近	M(OMA)=3.4
	3	07/16	04H58M	H=54KM	M=3.7	和歌山県中部	M(OMA)=3.8
	4	07/18	13H44M	H=18KM	M=3.8	京都府南部	M(OMA)=4.0
	5	07/31	23H19M	H=7KM	M=3.5	奈良・三重県境	M(OMA)=3.3
	6	08/05	08H18M	H=16KM	M=4.2	熊野灘	M(OMA)=3.7
	*	08/10	08H30M	H=64KM?	M=3.8	室戸岬遙か沖	M(OMA)=3.5
	7	08/11	08H30M	H=9KM	M=3.6	日高川下流	M(OMA)=3.5
	8	08/20	00H29M	H=29KM	M=3.8	紀伊水道沖	M(OMA)=3.9
	9	08/29	00H50M	H=22KM	M=3.8	潮岬南東沖	M(OMA)=3.5
	*	08/31	21H45M	H=430KM	M=4.3	熊野灘沖深発	
	10	09/01	13H49M	H=6KM	M=3.7	神戸付近	M(OMA)=3.8
	11	09/05	02H22M	H=22KM	M=3.7	志摩半島付近	M(OMA)=3.6
	12	09/11	05H40M	H=25KM	M=3.9	潮岬付近	M(OMA)=3.4
	13	09/16	19H00M	H=352KM	M=3.7	熊野灘沖深発	

DISTRIBUTION OF EARTHQUAKES.
 PERIOD ; FROM 1996Y 7M 1D TO 1996Y 9M 30D
 NUMBER OF EARTHQUAKES ; 1802



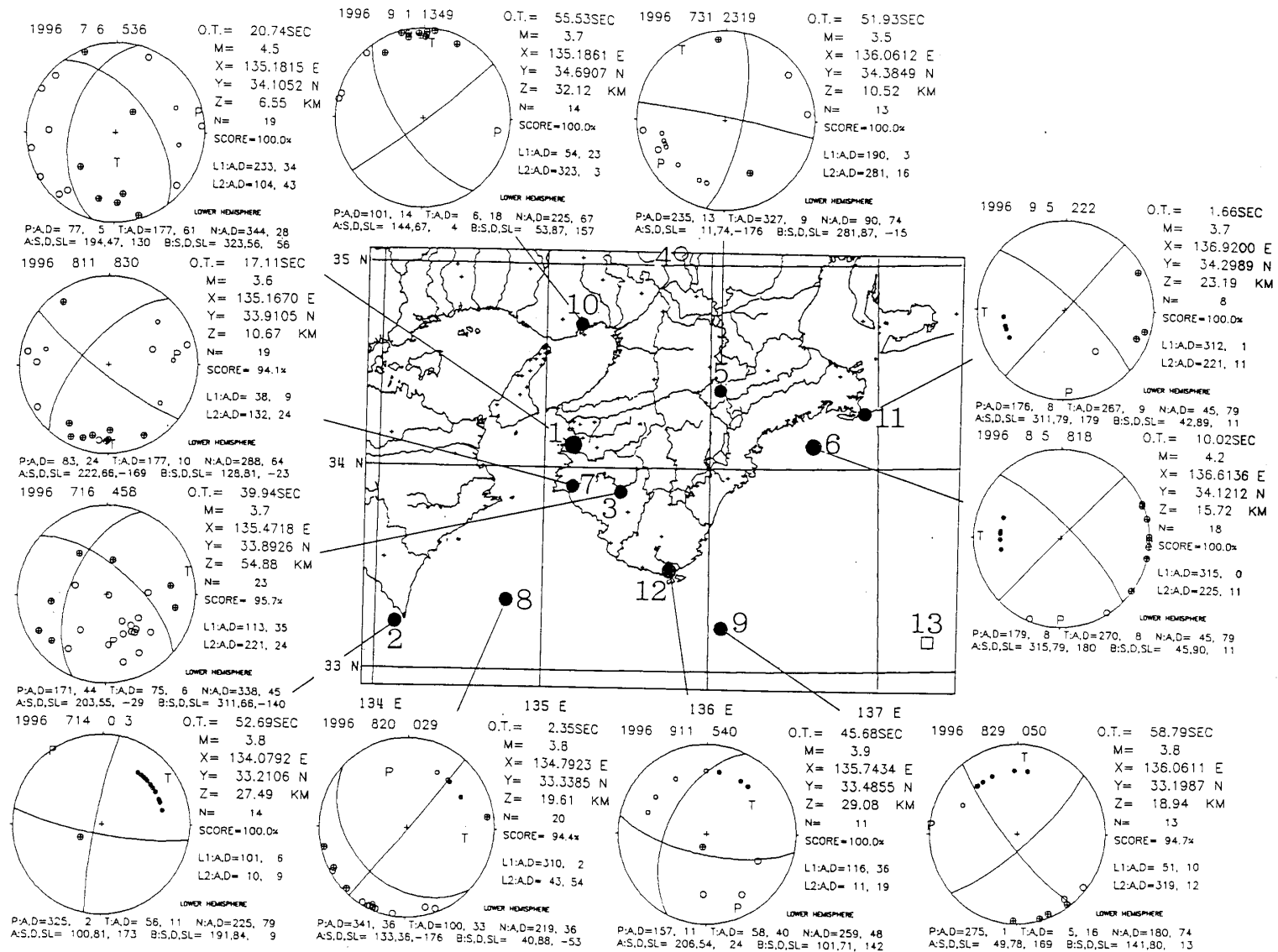
第1図 紀伊半島およびその周辺部の震源分布図（1996年7～9月）

Fig. 1 Seismic activity in and around the Kii peninsula during the period Jul. - Sep., 1996.



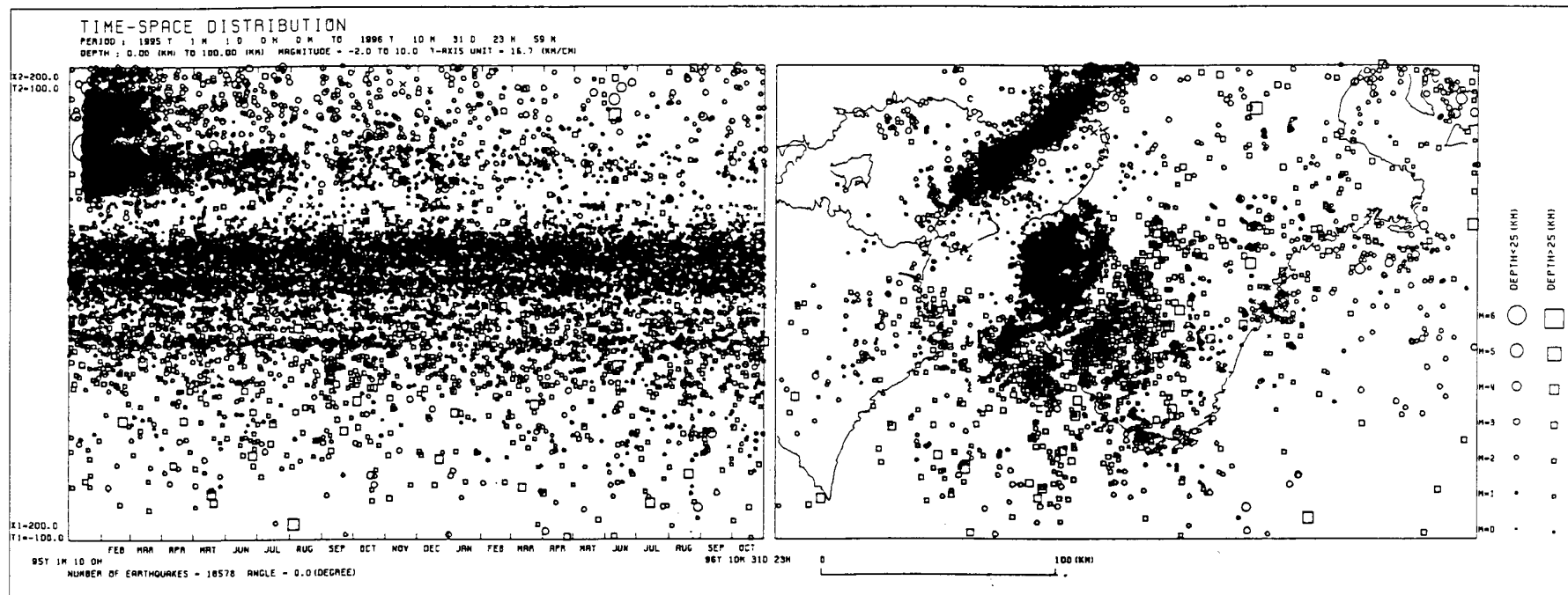
第2図 和歌山市、有田市と周辺部の震源分布図（1996年7～9月）

Fig. 2 Seismic activity in and around Wakayama city during the period Jul. - Sep., 1996.



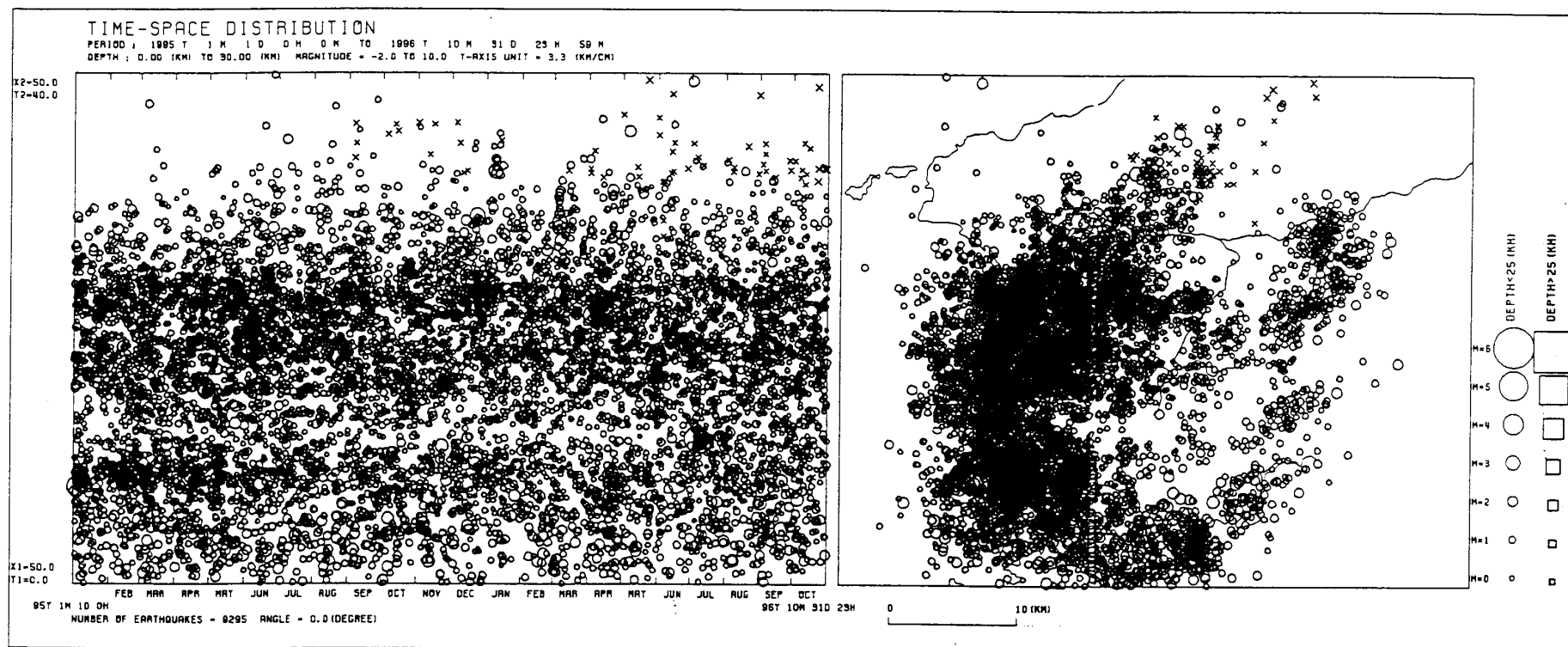
第3図 今期間中の $M \geq 3.5$ の震央と主な地震のメカニズム解

Fig. 3 Distribution of comparatively large earthquake ($M \geq 3.5$) and focal mechanism solutions in and around the Kii peninsula.



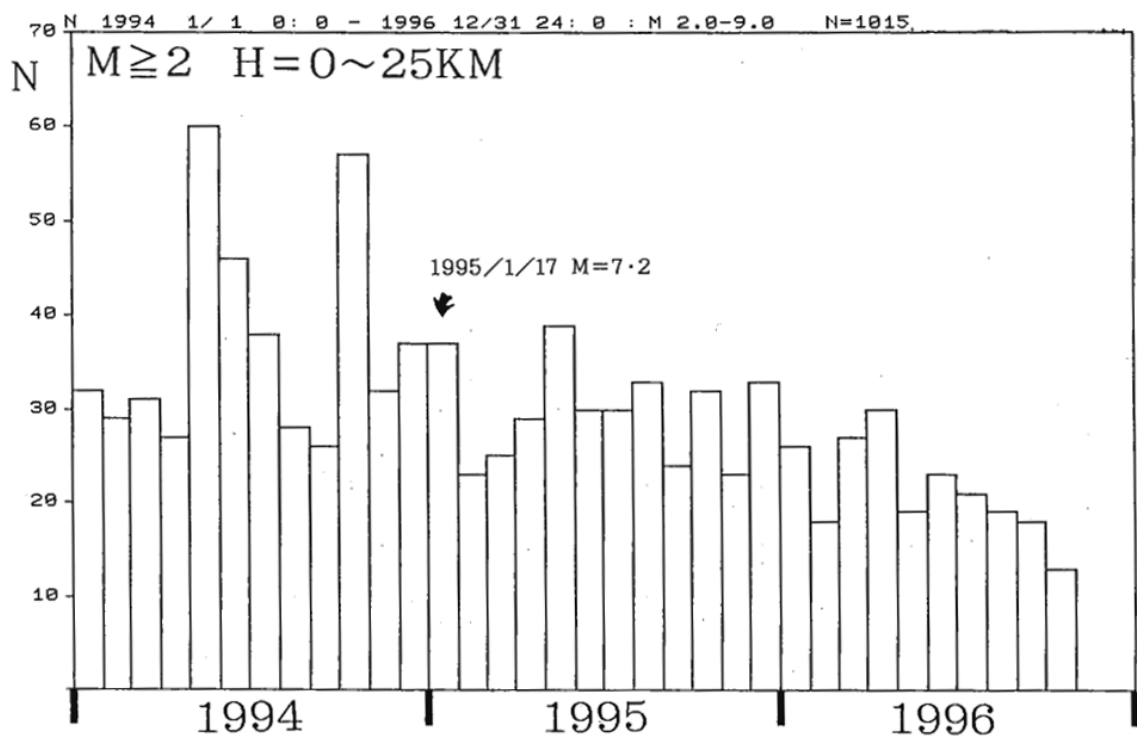
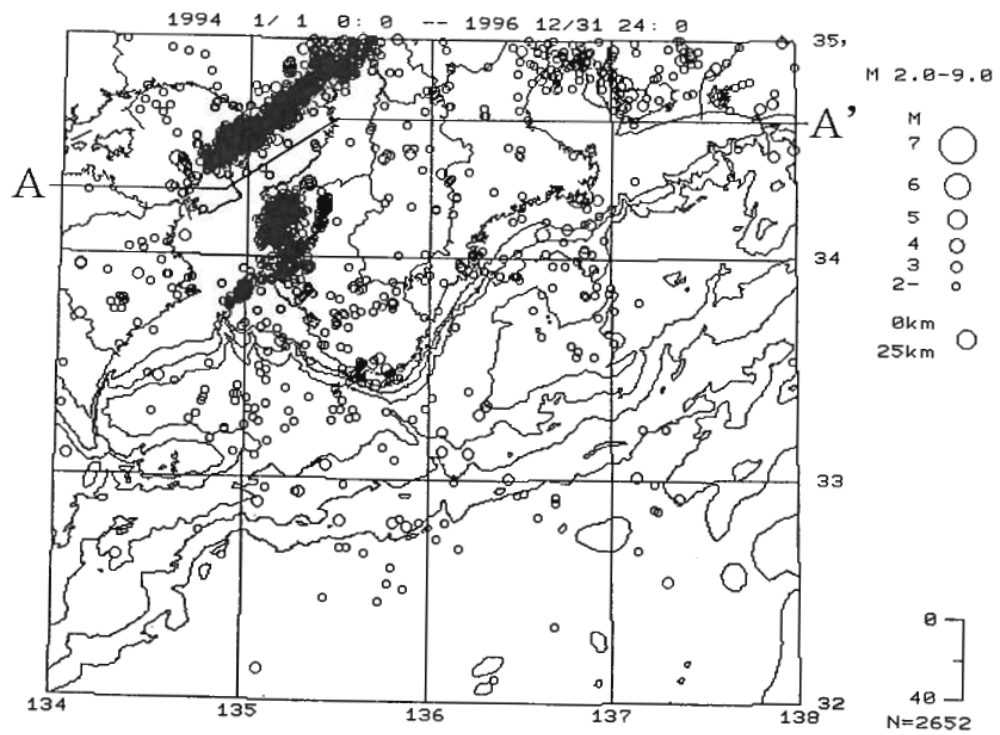
第4図 紀伊半島付近の地震の時系列図（東西断面に投影，1995年1月～1996年10月）

Fig. 4 Space - time distribution of earthquakes in and around the Kii peninsula during the period Jan. 1995 - Oct. 1996.



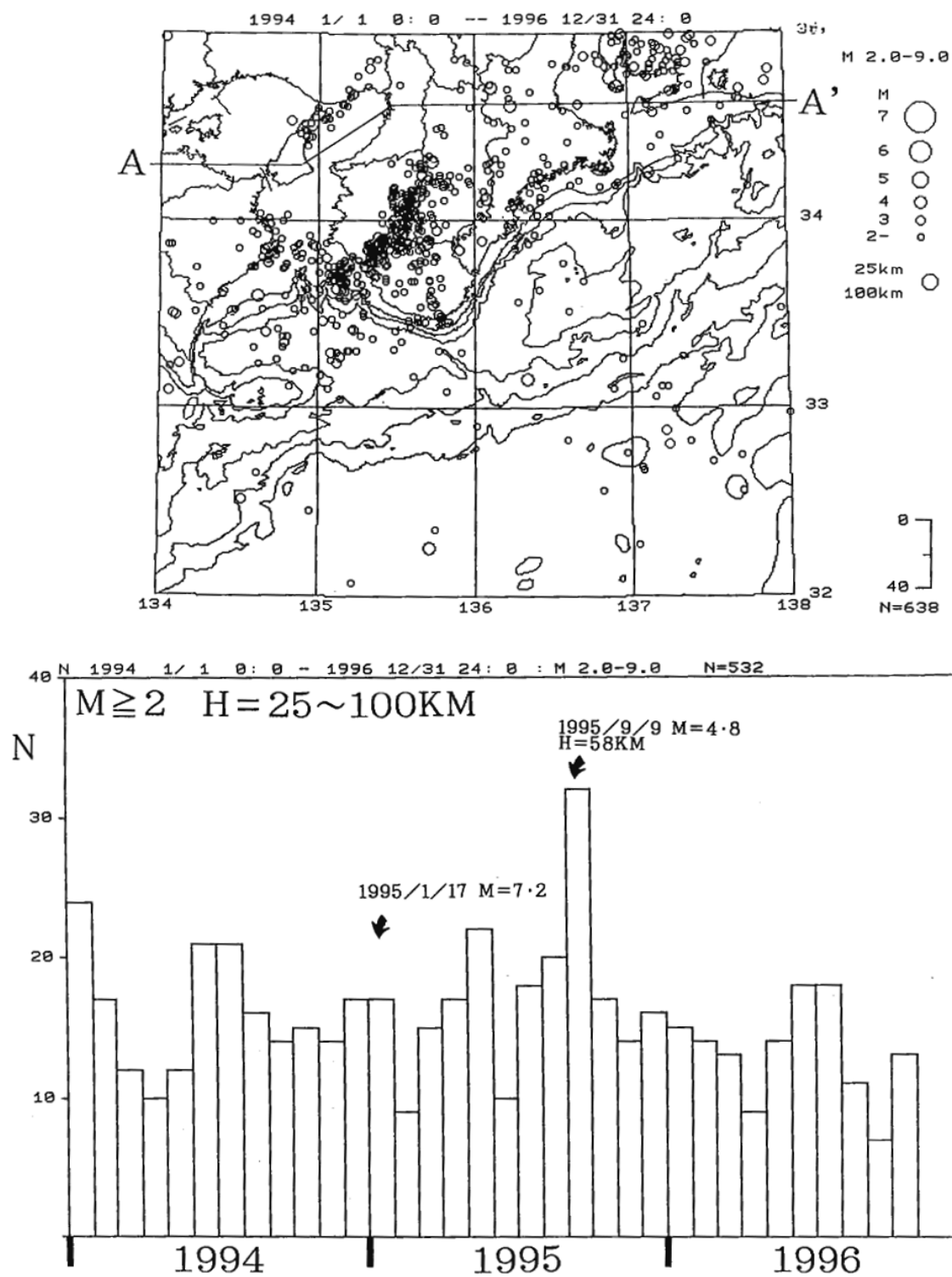
第5図 和歌山付近の地震の時系列図（南北断面に投影，1995年1月～1996年10月）

Fig. 5 Space - time distribution of earthquakes in the Wakayama city, during the period Jan. 1995 - Oct. 1996.



第 6 図 月別頻度分布 (1994 年 1 月以降, $M \geq 2$, $H=0 \sim 25$ km, A-A' 線以南)

Fig. 6 Monthly number of earthquakes ($M \geq 2$, $H=0-25$ km, South region of A-A' line) .



第7図 月別頻度分布 (1994年1月以降, $M \geq 2$, $H=25 \sim 100$ km, A-A'線以南)

Fig. 7 Monthly number of earthquakes ($M \geq 2$, $H=25-100$ km, South region of A-A' line).